

資本家某は指取階級としての地位を永遠にツヅケルために戰争も辭せずとして、軍備を擴張し、利益をツカ、收少であるが一方労働者の生活は向上したであらうか、勞働者の實踐の動きと、物價の値上りとを比べてみると

定額賃銀

實收賃銀

小賃指數

七年平均	八八、一	八八、一	六九
八年平均	八五、一	八九、二	七三

右の如く物價は七年から八年に四上つてゐるのに、實收賃銀は一、一上つてゐるにすぎない。物價の値上りと實收賃銀との差があることは結局労働者の賃銀が切り下げられたのと同様であつて労働者の生活は苦るしくなつてゐることになる。従つて労働者は生活ヨワゴの闘争に起ち上つてゐる、之を爭議についてみると、

七年元二八件九萬八千八百五十人、八年六三八件十萬三千六百六十二人、昭和八年に於て争議の件数が激増せるのは、非常時の衆名の下に労働者は戻りざませられたまた單なる生活擁護闘争に廻じてさへで資本家階級の慘忍なる算盤が下され勝ちに立てるものである。尚ほ争議件数のうち賃銀値上を中心とするで要するに争議は七年の三五四件から八年の五百七件に及んでゐるが之は会社の利益が増したにも拘はらず幾様不況を理由にオレツバられでゐた。非人間的な安い賃銀をそのままに又エオナウドするドン然本資本家に対する労働者の生活障害の正體な争議闘争である。労働者の賃銀が勝らないのは何故かと曰ふに、今に四半島人後盾の統計であるから備用大なるひとのとき奉い制のではあるが云々失業者が倒と參るに街頭に現がうが